



病院等に関する検討委員会の状況 No.2

—医療体制の充実に向けて—

第2回・第3回・第4回の検討委員会を開催

石川町の医療体制の充実に向けて、病院等の機能や設置等について検討する「病院等に関する検討委員会」を第2回・第3回・第4回と開催しました。主な内容等は次のとおりです。

◆第2回 病院等に関する検討委員会（6月24日開催）◆

【検討内容】

- 町民が求める病院等について(役割・機能・診療科目等)
- 県内の病院等の体制や運営状況等について

【委員からの主なご意見等(要旨)】

- ・病院建物が古ければ耐震補強が必要と思われる。それを理由に移転する病院もあるのでは。
- ・公立病院は、医大等から支援があっても医師の確保は難しい。病院が来ても、医師確保のバックアップがなければ運営は難しいのではないか。
- ・病院像を考えるより、誘致の条件を考えたほうが良いのではないか。土地の提供といっても売却、賃貸、保証金など、こういう条件で病院がおいでいただけるのか提示するのが本来で、双方の意見を出し合わない決められないのではないのか。あったらいいなでは決められない。
- ・病院事業がとん挫した時の建物の扱いも考えるべきだ。10年先の町財政を見据えて貸し付け条件を決めて考えるべきではないのか。
- ・病院にはドクターヘリポートを併設し、夜間救急や看取りができる機能も必要なのではないか。
- ・公立病院を誘致するわけではないので、現実的に民間病院をどこまで支援できるのだろうか。
- ・高度医療は郡山へ1時間で行くことができる。町に最低限あればいいものを積み上げ将来像を描き、最低限必要な条件を掲示すればよいのでは。高齢者が入院できる病院。短期間預かってくれる、身近で気軽に入院できる病院がよいと思う。
- ・遠くに入院すると家族が大変だから近くに病院がほしい。若い人は、日曜日や夕方から夜に診てもらえる診療所や1～2日入院できる病院がいいと思っている。
- ・少子高齢化の時代、町にあった病院を考えないと負の遺産を抱えることになるのでは。基本的な医療が行える病院であればよいと思う。
- ・相談窓口や二次医療、三次医療に繋げる機能がある病院がよいのではないかと思う。
- ・入院してもすぐに退院、介護施設も待機状態、在宅介護をすることは難しい、ちょっとした期間または次の施設が決まるまでの期間入院できる病院があればよいと思う。
- ・町内にない耳鼻咽喉科や夜間救急があればかかりやすい。
- ・気軽ににかかることで、小児科が潰れた病院がある。医師が全員辞めてしまった。医療は地域で守らないといけない。

◆第3回 病院等に関する検討委員会（8月8日開催）◆

- 有識者による講話

演題「今後の地域医療のあり方について」

講師 福島県医師会事務局長 馬場 義文 氏（地域医療アドバイザー）

1 地域医療の現状・問題について

- 《現状》 ・人口減少、少子高齢化 ・2次医療圏の病床機能の分化、連携促進
・医師偏在、診療科偏在対策 ・開業医の偏在対策 ・医師の働き方改革
- 《問題》 医療を受ける側と提供する側との医療ギャップの拡大
- ・住 民 : 身近なところで必要な医療を受けたい。
 - ・医療機関 : 医師不足で必要な医療の提供が困難。
 - ・医 師 : 症例のある病院で勤務したい。患者数が見込まれる地域で開業したい。利便性の良い地域で生活したい。

★裏面もご覧ください。

2 これから地域医療を考えるうえで留意することについて

- ・人口減少は、医療需要が減少し、医療資源の集約・縮小が避けられない。
- ・高度急性期、急性期、回復期、慢性期の全医療を特定の地域のみで対応はできない。
- ・採算性が確保されなければ、医療提供体制の基盤は確保できない。
- ・医療人材がいなければ、医療の提供はできない。医師の確保が最大の課題となる。
- ・市町村が地域医療を考える。

(地域包括ケアシステム、介護保険、学校保健、検診、予防接種など一体的に実施。)

3 地域医療対策のポイントについて

《現状把握》

- ・いま不足している(又は求められている)保健、医療分野は。
- ・将来的に増加が見込まれる保健、医療分野は。
- ・地元の医師等医療人材の現状及び将来的な課題は。

《具体的な検討をする上で》

- ・不足している医療または需要が見込まれる医療をカバーする手立てを考える。
- ・有効性、リスク、コスト、持続性、実現性等を検討。
- ・優先順位を付けて、出来るところから順次着手。
- ・今、求められている地域医療は、地域包括ケアシステムの構築、在宅医療の充実。
- ・地元への医師の招聘、地元開業医の承継対策も必要。
- ・ICTを活用した遠隔診療や医師派遣要請などの対策。

【委員からの主なご質問、ご意見等(要旨)】

- ・10年後何が必要か。癌になれば郡山、福島、東京と高度医療を求めて行くだらう。町に病院があっても行くだらうか。(講師:当初、住民に望まれてできた病院でも、後にはベッドが埋まらないところもある。患者は店を選ぶように病院を選ぶ。)
- ・病院について、建設も含めて、行政はどこまで関われば良いのか。(講師:病院まで必要なのか。診療所でも良いのではなど。まずは町の課題をはっきりさせ、その対応の実効性と持続性を含めて考えるべきでは。)
- ・医師の確保問題と大幅な人口減少の中、病院を建てるメリットはあるのか。(講師:県立医大から地域支援病院へ、地域支援病院から地域の病院や診療所へというシステムが出来れば、持続可能な地域医療が確立するのではないか。)
- ・医師がいなければ、学校保健、産業保健、各種健診、予防接種ができなくなるのでは。(講師:県教委も学校医の確保は学校任せとなっている。)
- ・これからは、地域包括ケアシステムの充実や健康づくりの強化が必要だと感じた。
- ・日程はあるだろうが、必要な病院は何か。スタートラインに立ち返って議論したほうがよいと思う。

◆第4回 病院等に関する検討委員会 (9月12日開催)◆

○公立小野町地方総合病院視察

小野町、田村市、平田村、川内村、いわき市を構成団体とする総合病院で、公的医療機関として地域医療の中核的病院である公立小野町地方総合病院を視察しました。病院は、平成23年3月の大震災により、病院の機能が損なわれる事態となりましたが、平成27年3月にヤマト福祉財団及び県の支援によって、病床数119床、診療科目12診療科の新しい病棟を移転・建設しました。医師不足、24時間救急患者受入れ体制の整備、電子カルテの導入、精神科診療体制整備と地域の認知症対策への貢献、子育て支援充実への貢献など今後の課題や計画について研修しました。

これまでの内容を踏まえ、石川町の医療体制の充実について検討し、年内を目標に報告書をまとめいきます。

令和元年9月

病院等に関する検討委員会委員長 二瓶 義雄